

寒川町舗装道路掘削制限及び復旧に関する内規

(目的)

第1条 この内規は、寒川町道路占用規則(昭和63年規則第7号)第14条中「町長の指示する方法」及び第22条中「必要な事項」について定める。

(路面復旧の方法 第14条関係)

第2条 路面復旧は、原則として全幅での復旧とし、掘削の深さに対して三分の影響をとり、その影響と上層下層路盤の厚みと同じ幅の安定処理及びはつりをそれぞれ20cmとする。(仕様書1参照)

なお、そのはつりまでで、アスファルト幅員4mを超える車道で半面を超えない場合は、原則半幅での復旧を認めるものとする。(仕様書1参照)

また、はつりから1.2m以内にパッチ跡等がある場合は、そのパッチ跡までを影響範囲とすること。

また、交差点内については、原則として全面復旧とする。ただし、アスファルト幅員4mを超える車道で半面を超えない場合等は仕様書1を参照すること。

ただし、特に必要な場合は道路管理者の指定した方法で路面復旧すること。

(地下埋設の方法 第10条関係)

第3条 地下埋設の深さは、原則として当該管を設ける道路の舗装の厚さ(路盤を含む)に0.3メートルを加えた値(当該値が車道については、0.6メートルに満たない場合には、0.6メートル。歩道については、0.5メートルに満たない場合は0.5メートル)以下としないこと。(高級舗装は注意すること。)

ただし、下水道の本管については当該値が1メートルに満たない場合には1メートル以下としないこと。

なお、上記のとおり確保できない場合は、埋設物に補強措置を施すこと。(仕様書2、3参照)

(舗装道路の掘削制限)

第4条 新設又は全面的な補修を行った道路は、次の各号に掲げる期間掘削することはできない。

ただし、公益上特に必要があると町長が認めた場合は条件を附して掘削を許可することがでる。

(1)高級舗装道路 3年

(2)簡易舗装道路 1年

(アスファルト舗装密度試験)

第5条 アスファルト舗装の本復旧面積が300㎡を超える工事の場合は、コア抜きによるAs舗装の密度試験を行い、次条に定める完了届の提出の際に、舗装厚について確認できる写真及び締固め度について確認できる試験結果の写しを添付すること。

(完了届の提出)

第6条 工事完了後速やかに完了届を提出すること。完了届の工事写真帳はA4版とし提出部数は1部とすること。

また、台紙一頁に写真3枚貼付けまたは印刷とし、デジタルカメラ(100万画素程度以上の機種を用いるものとする。)の印刷用紙は写真用の用紙を使用すること。

(道路補修責任期間 第19条関係)

第7条 占有者又は道路自費工事を行う者が工事を施工した舗装、路床、法部その他の道路の構造に係るものに欠陥があるときは当該工事完了の日から1年間、当該工事を施工した占有者又は道路自費工事を行う者がその補修を行わなければならない。

(競合工事)

第8条 占有者は、競合工事になった場合は相互に充分打ち合わせを行い、本復旧を一本化すること。

附 則

(施行期日)

1 この内規は、平成10年10月 1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この内規は、平成12年 1月 1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この内規は、平成19年 4月 1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この内規は、平成21年 5月 1日から施行する。

附 則

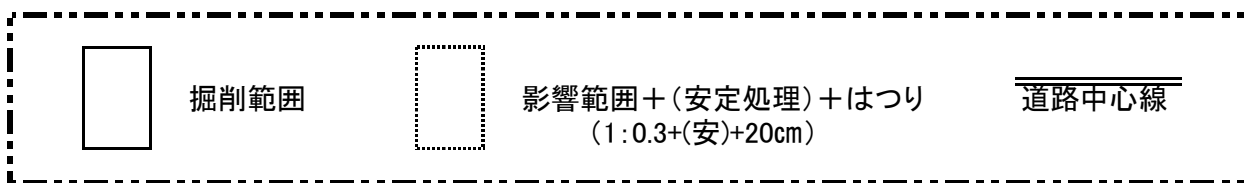
(施行期日)

1 この内規は、平成22年 6月 1日から施行する。

附 則

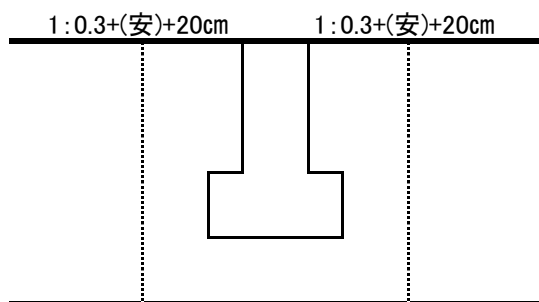
(施行期日)

1 この内規は、平成28年 4月 1日から施行する。

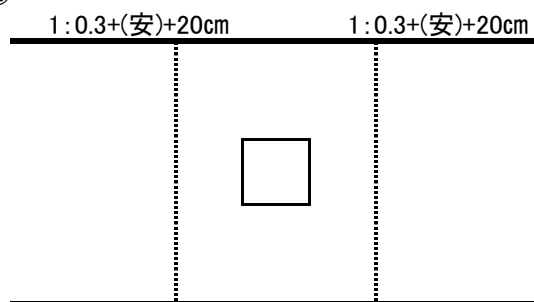


1. アスファルト幅員が4mを越えない場合

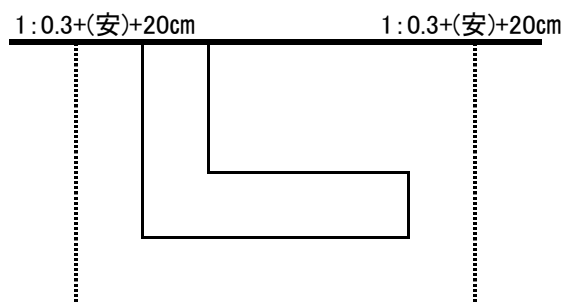
①



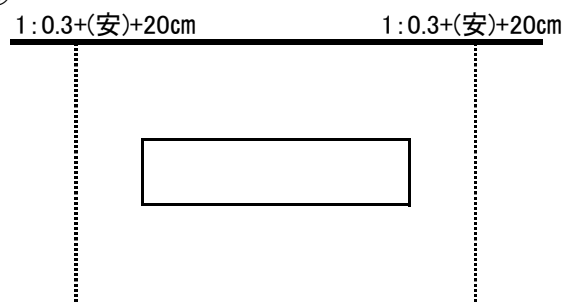
②



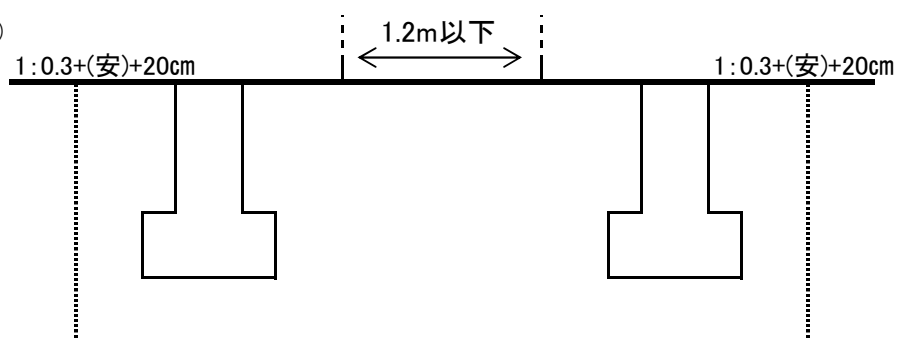
③



④



⑤

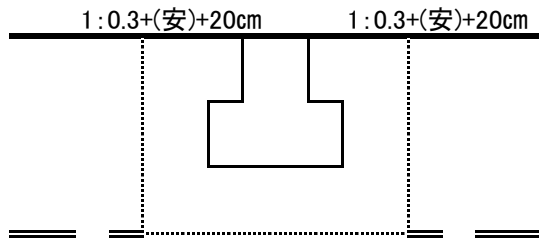


1:0.3+(安)+20cmの影響範囲から1.2m以内にパッチ跡等がある場合は、そのパッチ跡等までを影響範囲とすること。

2. アスファルト幅員が4mを越える場合

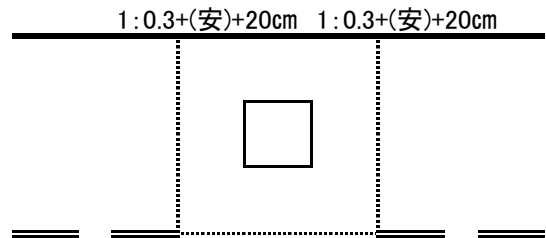
(1) 影響範囲＋(安定処理)＋はつり20cmが道路中心線を越えないとき

①



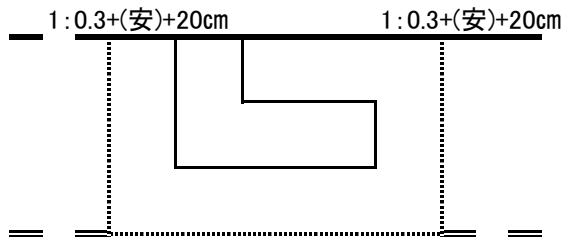
道路中心線が
1:0.3+(安)+20cm以上

②



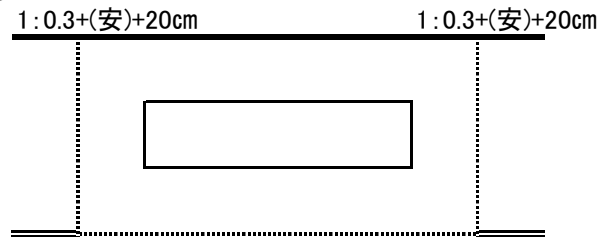
道路中心線が
1:0.3+(安)+20cm以上

③



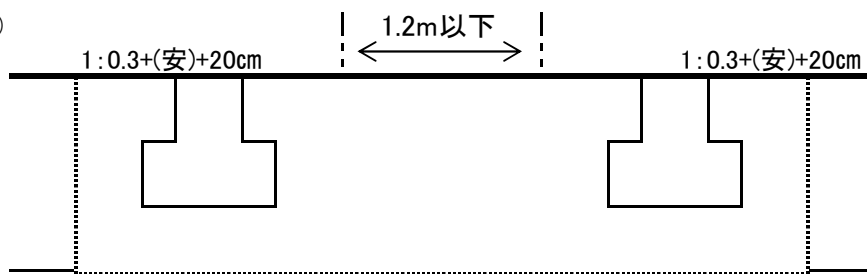
道路中心線が
1:0.3+(安)+20cm以上

④



道路中心線が
1:0.3+(安)+20cm以上

⑤

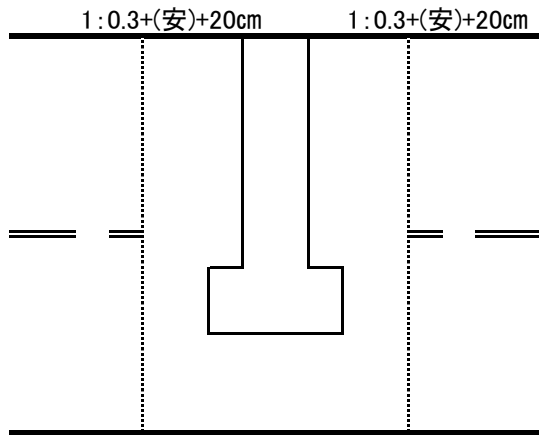


道路中心線が
1:0.3+(安)+20cm以上

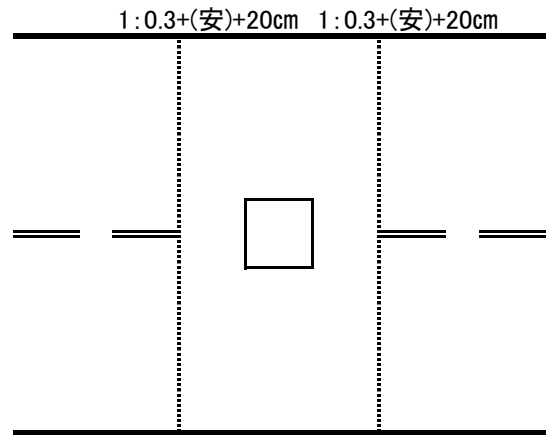
1:0.3+(安)+20cmの影響範囲から1.2m以内にパッチ跡等がある場合は、
そのパッチ跡等までを影響範囲とすること。

(2) 影響範囲+(安定処理)+はつり20cmが道路中心線を越えるとき

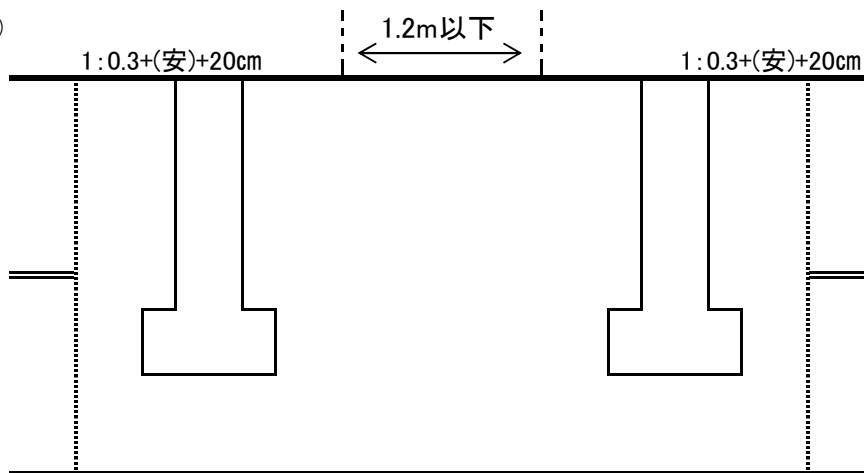
①



②

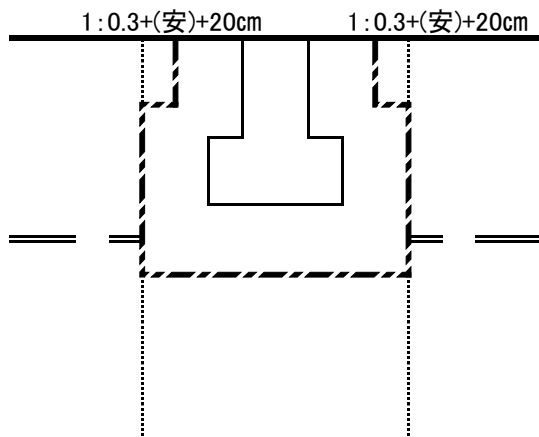


③



1:0.3+(安)+20cmの影響範囲から1.2m以内にパッチ跡等がある場合は、そのパッチ跡等までを影響範囲とすること。

④



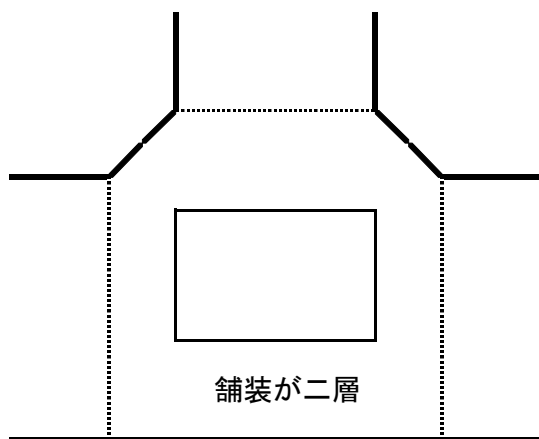
※ 掘削幅が半面内におさまっていても、影響範囲+(安定処理)+はつりが道路中心線を越える場合は全幅復旧

----- 影響範囲+(安)+はつり
(1:0.3+(安)+20cm)

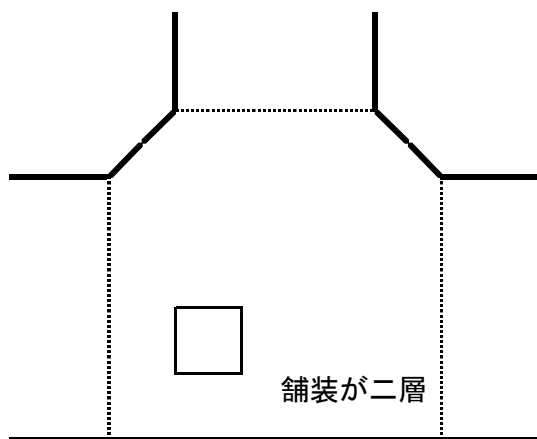
3. 交差点内の復旧

(2) アスファルト幅員が4mを越えない場合。

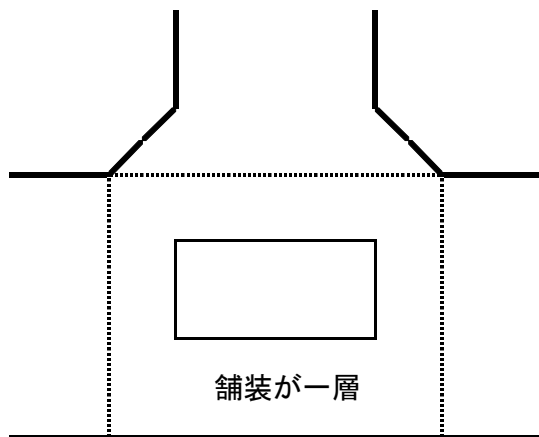
① 舗装が二層のとき



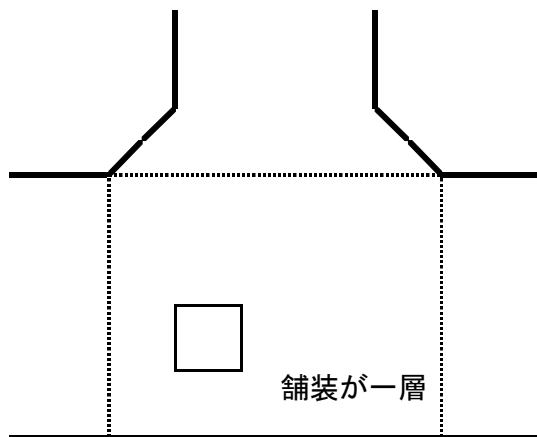
② 舗装が二層のとき



③ 舗装が一層のとき

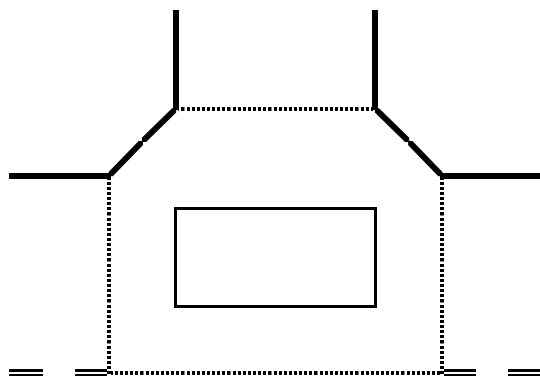


④ 舗装が一層のとき



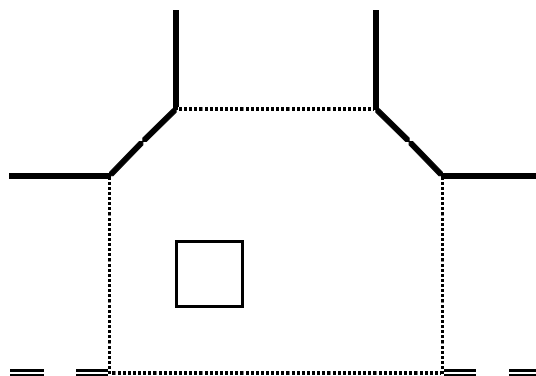
(2) アスファルト幅員が4mを越える場合。

① 影響範囲+(安)+はつりが道路中心線を越えない場合



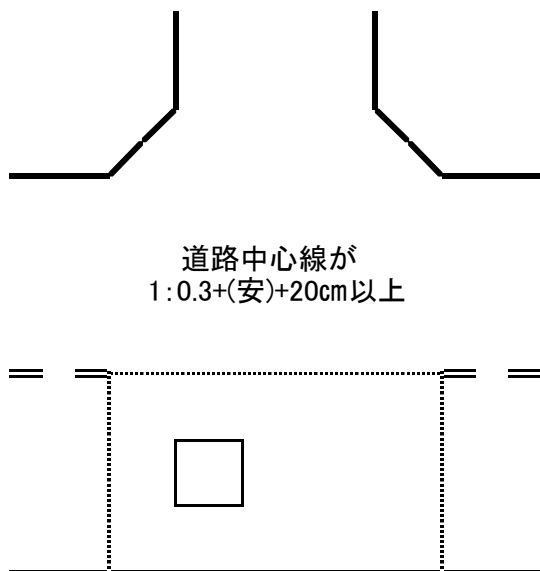
道路中心線が
1:0.3+(安)+20cm以上

② 影響範囲+(安)+はつりが道路中心線を越えない場合



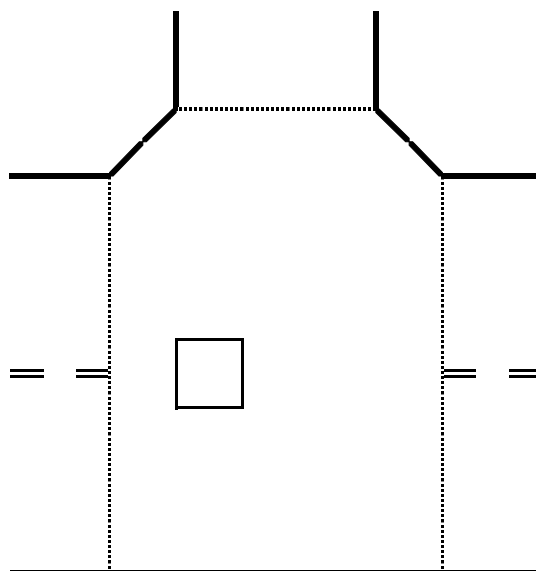
道路中心線が
1:0.3+(安)+20cm以上

③ 影響範囲+(安)+はつりが道路中心線を越えない場合



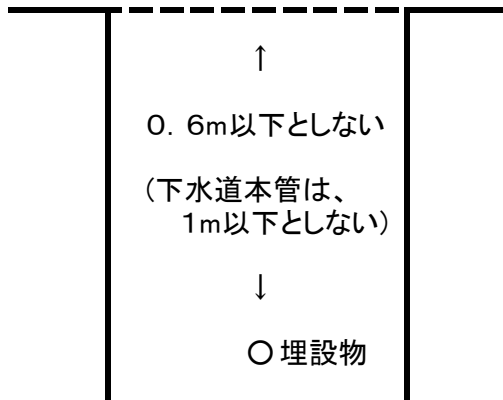
道路中心線が
1:0.3+(安)+20cm以上

④ 影響範囲+(安)+はつりが道路中心線を越える場合



※その他の場合や、不明な点がある場合は必ず道路管理者と協議すること。

1. 土被り

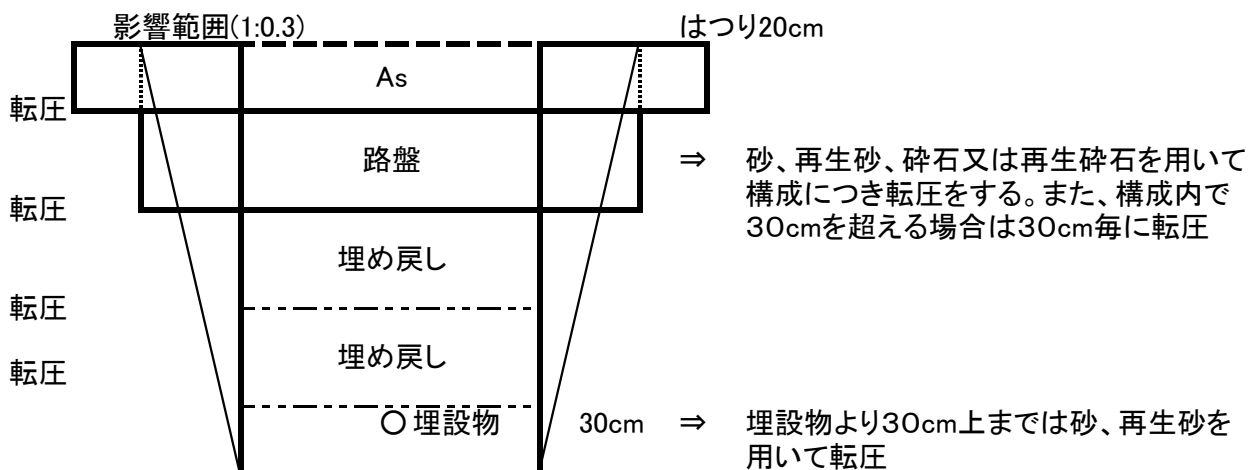


土被り0.6m(歩道については0.5m以上)
確保できない場合は、埋設物に補強措置
(コンクリート巻き)を施す。
(下水道本管は1m以上)

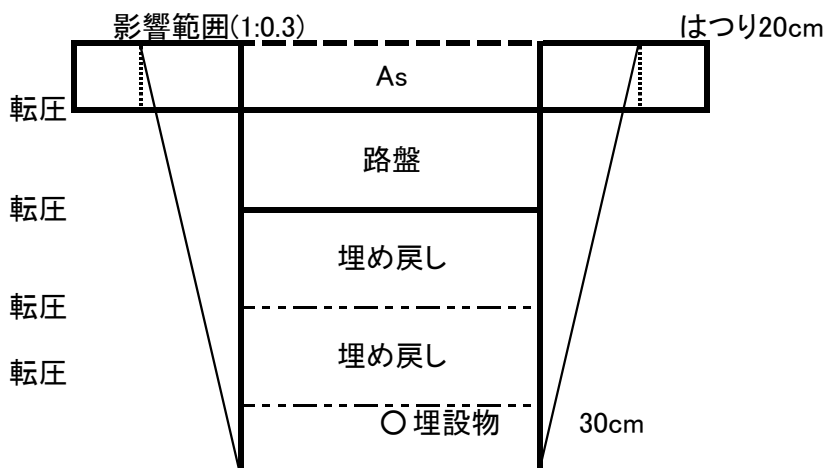
※高級舗装は注意すること。

2. 埋め戻し（規則第10条第7号関係）

①

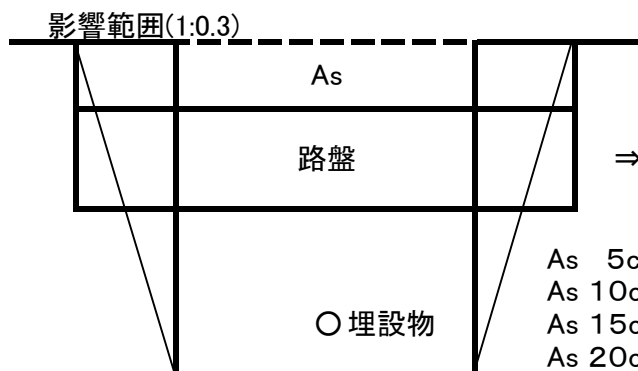


②掘削面積30㎡以上で掘削溝のみの路盤先行で行う場合



3. 仮復旧

①

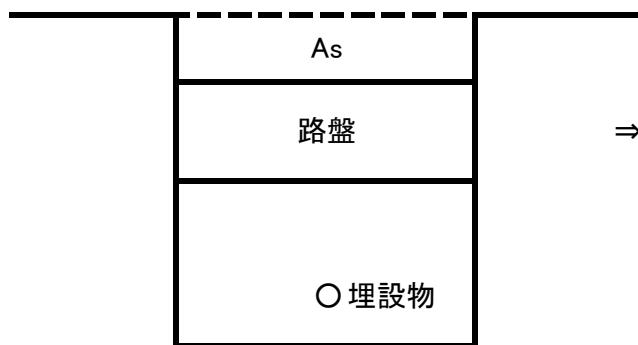


⇒ 仮復旧の段階で、路盤工(三分勾配)を行う。
路盤材や路盤厚は許可書のとおり。

As 5cm道路の場合 → As 3cmで仮復旧
As 10cm道路の場合 → As 5cmで仮復旧(密)
As 15cm道路の場合 → As 10cmで仮復旧(密+粗)
As 20cm道路の場合 → As 10cmで仮復旧(密+粗)

例) As表層5cm 路盤RM-40 20cmの舗装道の場合
↓
As表層3cm 路盤RM-40 22cmで仮復旧

②掘削面積30m²以上で掘削溝のみの路盤先行で行う場合



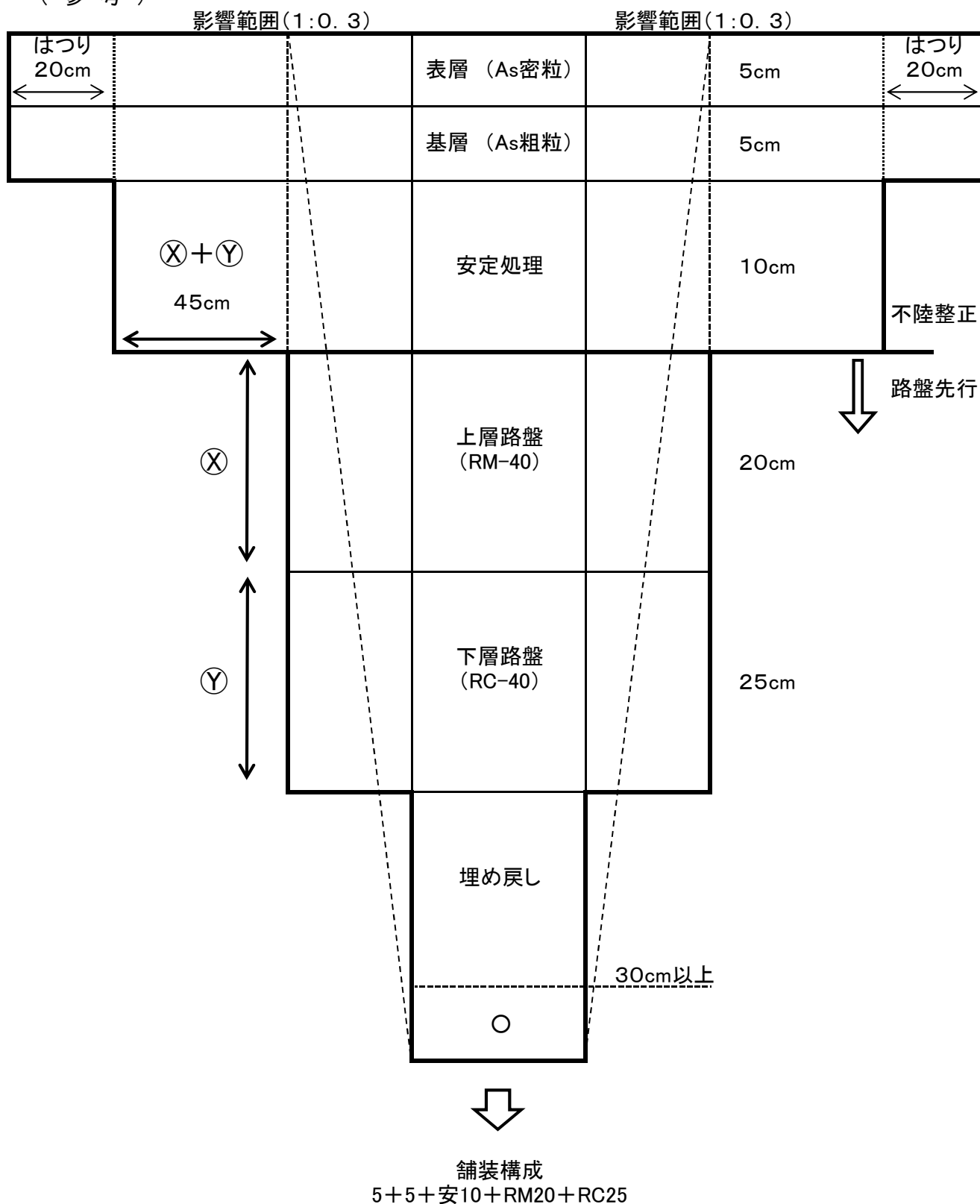
⇒ 仮復旧の段階で、路盤工(掘削溝)を行う。
路盤材や路盤厚は許可書のとおり。

4. 仮復旧後の本復旧

仮復旧の段階で路盤工を施すため、本復旧の段階では路盤入替は行わない。不陸整正のみ行う。

①

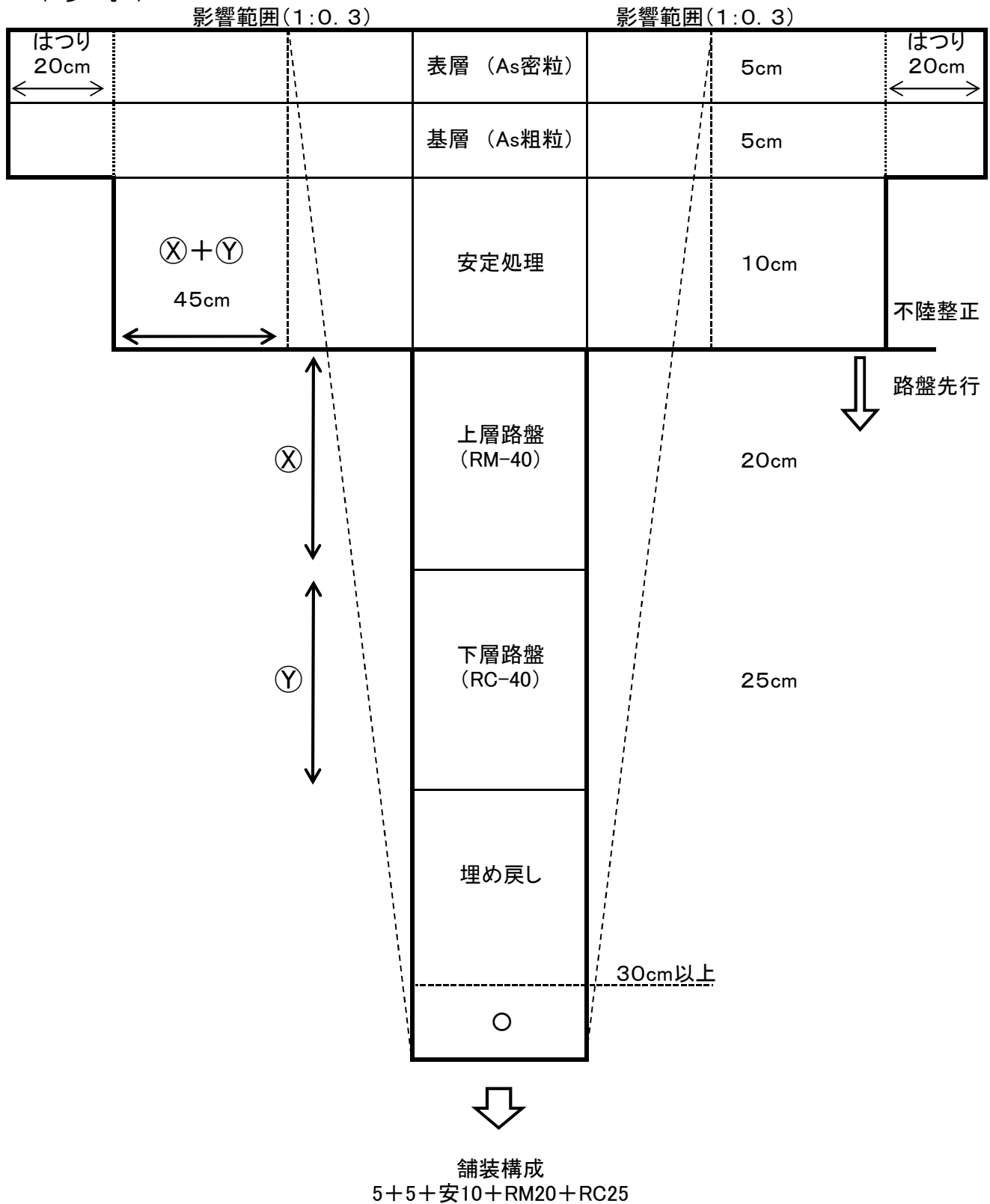
(参 考)



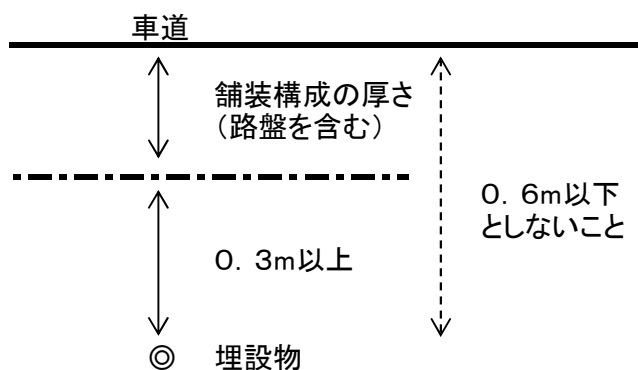
仮復旧の段階で路盤工を施すため、本復旧の段階では路盤入替は行わない。不陸整正のみ行う。

②掘削面積30㎡以上で掘削溝のみの路盤先行で行う場合

(参 考)



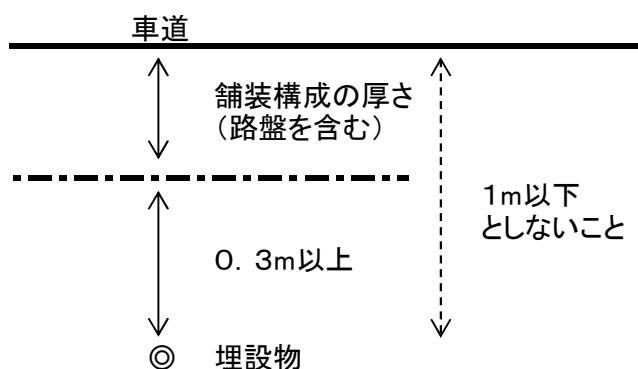
電気事業・電気通信事業・水道事業・ガス特定管路



当該値が0.6mに満たない場合は
0.6m以下としないこと。

※高級舗装は注意すること。

下水道事業の特定管路



(本管)

当該値が1mに満たない場合は
1m以下としないこと。

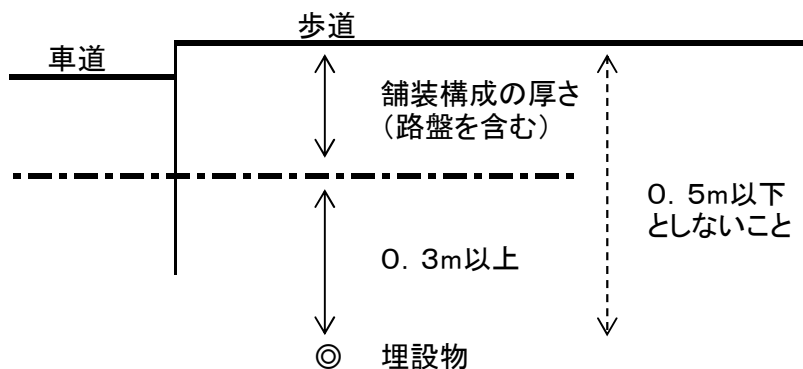
※高級舗装は注意すること。

(その他の管)

当該値が0.6mに満たない場合は
0.6m以下としないこと。

※高級舗装は注意すること。

歩道での各事業の特定管路



当該値が0.5mに満たない場合は
0.5m以下としないこと。